

2019年度 鉄道事業設備投資計画 持続的かつ力強い成長に向けて、 **過去 10 年間で最高額**となる**総額 316 億円** (昨年比+28%)

- ・新型特急 **Laview の増備** (5 編成) および 40000 系車両の増備 (2 編成)
- ・新たに **5 駅でホームドア整備**に向けた検討を開始
- ・ひばりヶ丘駅、所沢駅、多磨駅リニューアル工事の推進

西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:若林 久)では、お客さまの安全の確保、快適なサービスの提供を通じ、人にやさしい鉄道を目指しております。2019 年度は総額 316 億円を投じ、安全対策、サービス向上、環境対策などの鉄道事業設備投資を行ってまいります。

《2019 年度の鉄道事業における、主な設備投資の概要》

1. 安全対策

鉄道事業では、お客さまの安全の確保を最重要課題としてとらえ、安全対策投資に重点をおきます。

- (1) 駅ホームの安全性向上
 - ホームドア、内方線付き点状ブロック、ホーム隙間転落検知システム整備工事の推進
- (2) 輸送の安全性向上
 - 駅施設およびトンネルなどの耐震補強、法面の改良を推進
- (3) 新宿線連続立体交差事業の推進
 - (事業中) 中井～野方駅間、東村山駅付近 (準備中) 井荻～西武柳沢駅間、野方～井荻駅間

2. サービス向上

お客さまに快適にご利用いただけるよう、車両の増備、駅の改良工事、情報配信機能の強化を推進します。

- (1) 駅空間の快適性向上
 - ひばりヶ丘駅、所沢駅、多磨駅のリニューアルに向けた改良工事
- (2) 車両の快適性向上
 - 新型特急車両 001 系 Laview、40000 系車両の新造
- (3) 情報配信機能の強化
 - 異常時の運行情報多言語化、公式スマートフォン用アプリ「西武線アプリ」の機能強化

3. 環境対策

省エネや CO₂ 排出量削減のため、駅や車両への LED 照明の導入、駅舎補助電源装置の導入を引き続き行います。

詳細は、別紙のとおりです。

【別紙】

1. 安全対策

お客さまの安全の確保を最重要課題としてとらえており、ホームドア、内方線付き点状ブロック、ホーム隙間転落検知システムなどの整備を推進します。なお、ホームドアでは、既存の設置予定駅に加え、新たに石神井公園、中村橋、富士見台、練馬高野台、新桜台駅の計5駅で整備に向けた検討を進めてまいります。また、輸送の安全を確保するため耐震補強、法面の改良などの安全対策を進めるほか、安全で快適なまちづくりを目指し連続立体交差事業を推進します。

(1) 駅ホームの安全性向上

・ホームドアの整備

ホームドアは、ホーム上からの転落や車両との接触を防止するための設備です。2020年度を目途とし、1日あたりの乗降人員10万人以上の駅について、ホームドアの整備を推進しております。また、2021年度以降についても、以下の5駅について整備に向けた検討を進めてまいります。今後も国および自治体等の関係機関と調整を図り、三位一体となり取り組んでまいります。



ホームドア（池袋駅）

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 【既に整備が完了している駅】 | 池袋（2～6番ホーム） |
| 【2020年度を目途に整備予定の駅】 | 練馬、西武新宿、高田馬場、所沢、国分寺 |
| 【2021年度以降の整備を検討する駅】 | 石神井公園、中村橋、富士見台、練馬高野台、新桜台 |

・内方線付き点状ブロックの設置

2018年度に引き続き、1日あたりの乗降人員が3千人以上の駅での整備を推進します。今年度は、稲荷山公園、元加治、西武秩父駅などの計5駅で設置を予定しています。これにより、駅舎改良工事中の多磨駅を除き、1日あたりの乗降人員が3千人以上の全ての駅で設置が完了します。

・ホーム隙間転落検知システムの設置

ホーム隙間転落検知システムは、列車停車中に列車とホームの隙間に転落したお客さまを発見するための設備です。2018年7月より新井薬師前駅の1番ホームで実証実験しておりましたが、今年度中に同駅で本稼働します。また、萩山駅3番ホームにおいても設置を予定しています。

(2) 輸送の安全性向上

・駅施設およびトンネルなどの耐震補強

今年度は駅施設およびトンネルの耐震補強を実施します。今後も輸送の安全性向上のため、駅施設やトンネル、高架橋などの鉄道構造物の耐震補強を推進します。

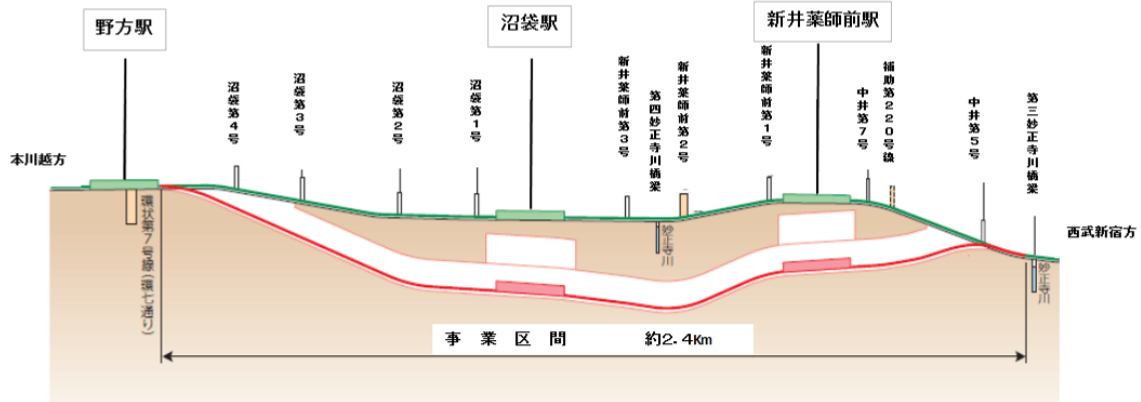
・法面の改良

列車運行の安全を確保するため、線路に面した法面などを改良することで斜面の安定化を図り、土砂崩壊を防止して安全性向上に努めます。今年度は吾野～西吾野駅間で実施します。

(3) 新宿線連続立体交差事業の推進

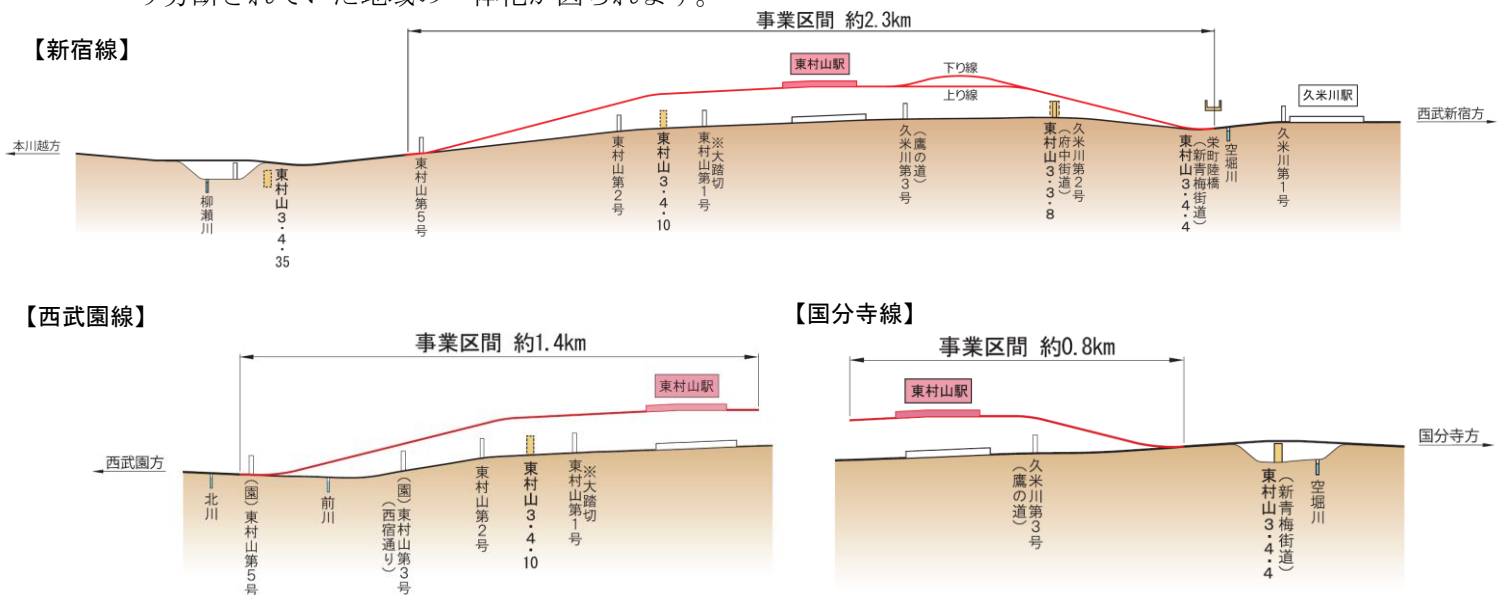
・中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）

2011年8月に都市計画決定され、2013年4月に事業認可を取得、2014年1月に工事に着手しました。今年度は始末端取付部の土木工事や駅部の仮設工事を行います。この事業が完成すると7カ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られるとともに、連続立体交差事業を契機とした駅前広場などの整備が促進されることで、快適なまちづくりにも寄与します。



・東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）

2012年10月に都市計画決定され、2013年12月に事業認可を取得、2015年1月に工事に着手しました。今年度は駅部の高架橋構築工事や始末端取付部の仮線路工事を行います。この事業が完成すると5カ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られます。



・井荻～西武柳沢駅間および野方～井荻駅間、早期事業化に向けて準備中

2016年3月に東京都により新規に着工を準備する区間として社会資本総合整備計画に位置付けられた、井荻～西武柳沢駅間および野方～井荻駅間の連続立体交差化計画の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し、新宿線沿線の安全性・快適性向上に努めます。

2. サービス向上

ひばりヶ丘駅、所沢駅、多磨駅において、駅空間の更なる利便性・快適性等の向上、地域活性化等のため、引き続き駅改良工事を推進します。

また、西武鉄道の未来を担う新たなフラッグシップトレインとして、2019年3月にデビューした新型特急車両001系LaviewおよびS-TRAINや拝島ライナーとしても活躍している40000系車両をロングシートの通勤車として増備し、より一層快適な移動時間を提供します。

さらに、2020年を迎えるにあたり、異常時における運行情報の配信を多言語化します。2018年3月に配信を開始している公式スマートフォンアプリ「西武線アプリ」では、今後もお客さまのニーズに合った情報を提供するため、新たな機能追加を予定しています。

(1) 駅空間の快適性向上

・ひばりヶ丘駅のリニューアル

ひばりヶ丘駅では、西武グループ一体となり、駅舎改修工事と駅ナカ商業施設のリニューアル工事を実施しております。駅舎改修工事では、2020年度の事業完了を目途に、旅客トイレ、南口エスカレーターなどの改修を実施します。また、駅ナカ商業施設「エミオひばりヶ丘」では、2021年度の事業完了を目途に店舗増床・既存店舗改修を実施します。多くのお客さまに、より便利で快適にご利用いただける駅を目指します。



ひばりヶ丘駅リニューアル（イメージ）

・所沢駅のリニューアル

所沢駅では、『通過する街から「働きたい、住みたい、訪れたい」街へ、そして選ばれる沿線へ』をトータルコンセプトに開発を推進しております。商業施設「グランエミオ所沢」の第Ⅱ期開発においては、商業店舗（約40店舗）や南側改札口を新設し、2020年夏の開業を予定しております。また、駅西口エリアにおいても広域集客型の商業施設を核とした大規模開発の計画を進め、2020年代半ばの開業を目指しております。当社の2大本線である池袋線および新宿線の重要な交通結節点である所沢駅やその周辺エリアの利便性を向上させることにより、当社沿線のさらなる発展と価値向上に向けて西武グループ一体でリニューアルを推進します。



所沢駅リニューアル（イメージ）

・多磨駅のリニューアル

多磨駅では、お客さまへの快適なサービスの提供、安全の確保を通じ、人にやさしい鉄道を目指すために2020年度の事業完了を目途に橋上駅舎化および自由通路整備を実施しております。本リニューアル事業の実施により、新たに東口を新設します。これにより、構内踏切を廃止し、ホームを拡張することで混雑が緩和し安全性が向上します。また、エレベーター、エスカレーターなどのバリアフリー施設の整備により、利便性の向上を図ります。



多磨駅リニューアル（イメージ）

(2) 車両の快適性向上

・新型特急車両 001 系 Laview の増備

2019年3月、世界で活躍する建築家・妹島和世氏監修のもと、25年ぶりに特急車両として導入した001系Laviewを今年度も引き続き、5編成増備します。順次、池袋線・西武秩父線で運行中の10000系ニューレッドアローを001系Laviewに置き換え、ちちぶ号・むさし号として運行します。これにより2019年度中にすべての編成が置き換わる予定です。ビジネス・観光型の特急車両としてお客さまのさまざまなシーンで快適な移動時間を提供します。



車両外観



客室

・40000系車両の増備

2017年3月にデビューし、有料座席指定列車「S-TRAIN」や「拝島ライナー」としても活躍している40000系車両をロングシートの通勤車として、2編成増備します。



車両外観

(3) 情報配信機能の強化

・異常時の運行情報多言語化

天災・事故等の異常事態が発生した場合に運行情報を駅構内放送やホームページ、西武線アプリ等でお客さまに多言語でご案内ができるシステムを整備します。これにより、外国人のお客さまにもより安心して当社線をご利用いただけるようになります。

・公式スマートフォンアプリ「西武線アプリ」の機能強化

西武線アプリは、配信開始から約17万ダウンロードに達し、鉄道・バス情報の情報配信をはじめ、イベントの電子整理券など、当社サービスをご利用いただく際に、さらに利便性・快適性を高めるアイテムとして、多くのお客さまにご利用いただいております。アップデート毎に機能を強化し、鉄道各社のアプリと連携するなど、ますます便利になりました。今後も、お客さまが便利で快適に当社サービスをご利用いただくための機能を、積極的に取り入れます。

「西武線アプリ」特設サイト：

<https://www.seibuapp.jp/railways/seibulineapp/>



3. 環境対策

引き続き、省エネルギー化などの環境対策を推進します。

・LED照明の導入

LED照明は消費電力が低くCO₂排出量削減の効果が期待できるため、駅や車両へのLED照明の導入を進めております。2019年度は、富士見台、所沢、拝島、是政駅などの計6駅で照明器具の取替に合わせてLED照明を導入します。

・駅舎補助電源装置の導入

通常電車がブレーキをかけた時に発生する電力(回生電力)を、駅設備(照明・空調・昇降機)の電源として用い、電力を有効活用することで、省エネルギー化を図るための設備です。2019年度は新たに2カ所に設置予定です。



駅舎補助電源装置(飯能駅)

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. (04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：平日9時～19時 土休日9時～17時]

以上